

安全データシート

作成日 2008年06月01日
改訂日 2017年01月01日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : 尿素水
整理番号 : HS118
会社名 : 北海道曹達株式会社
住所 : 北海道苫小牧市沼ノ端134番地122号
電話番号 : 0144-55-3788
FAX番号 : 0144-55-1193

2. 危険有害性の要約

人の健康に対する有害性 : ミストを吸引すると気道を刺激する。
環境への影響 : 易生分解性で魚毒性は低いが、富栄養化に影響を与える。

物理的及び化学的危険性 : 不燃性物質であるが、強く加熱すると分解し、アンモニアガスを生成する。

特有の危険有害性 : 特になし

GHS分類

本品に関するデータがないため、GHS分類出来ない。
現時点で物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性の全項目は、「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

絵表示またはシンボル : 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報 : 飲み込むと有害(経口)のおそれ。
皮膚の刺激のおそれ。
目の刺激のおそれ。
大量吸入により刺激等のおそれ。
呼吸器への刺激のおそれ。
大量放出の影響により水生生物に有害のおそれ。

注意書き

予防策 : 使用前に本紙の安全注意事項を読み取り扱う事。
必要に応じ適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
必要に応じて個人用保護具や換気装置を使用すること。
取り扱った後、手、顔などをよく洗うこと。

対応 : この製品を使用する時には、飲食または喫煙をしないこと。
飲み込んだ場合は、無理に吐かせずに口をすすぐこと。
皮膚に付着した場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水で洗うこと。
吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合は、直ちに多量の水で15分以上洗い流した後、速やかに医師の診断を受けること。

気分の悪い場合は、直ちに医師の診断を受けること。

保管 : 直射日光を避け、換気の良い10℃～30℃の暗所で保管すること。

廃棄 : 内容物又は容器を廃棄する場合には、都道府県の規則に従うこと。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分	: 単一製品
化学名又は一般名	: 尿素 Urea
別名	: 尿素水溶液
化学式(化学特性)	: $\text{CO}(\text{NH}_2)_2$
含有量	: 30%以上
化審法番号	: 2-1732
安衛法番号	: 2-1732
CAS番号	: 57-13-6

4. 応急措置

吸入した場合	: 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動し、直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	: 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。 大量の水を使用し、石鹼を使って十分に洗い落とす。 直ちに医師の診断を受ける。
目に入った場合	: 直ちに大量の水道水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗う。 直ちに医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	: 水でよく口の中を洗浄し、ぬるま湯等を飲ませ、嘔吐を行うと共に直ちに医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤	: 不燃性。
特有の危険有害性	: 加熱分解したガスは有害なアンモニアガスを含有するので、大量の水または消火剤を用いて消化する。
特有の消火方法	: 不燃性。 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 容器、周囲の設備などに散水して冷却する。 消火活動は風上から行なう。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置	: 漏れた場所の周辺から人を避難させると共に、危険、有害性を知らせる。 作業の際は保護具を着用し、飛沫などが皮膚に付着したりしないようにす 風上より作業し、風下の人を避難させる。
環境に対する注意事項 回収、中和	: 環境への影響を起こさないよう、河川などに排出しない。 少量の場合は、漏洩した液は土砂等に吸着させ取除き容器に回収する。 少量漏洩した液は多量の水を用いて十分に希釈して洗い流す。 多量の場合は、土砂等で囲って流出を防止し、これを吸着するか、安全 な場所に導いてから処置する。
二次災害の防止	: 漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。 漏洩した場所の周辺にはロープを張る等し、関係者以外の立入を禁止する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 保護具を着用し取り扱う。
局所排気・全体換気	: 局所排気、全体換気を行なう。
注意事項	: 目、皮膚、衣服への接触を避ける。
安全取扱注意事項	: 使用前に使用説明書を入手すること。
安全取扱注意事項	: 爆発性の三塩化窒素の生成を防ぐため、次亜塩素酸塩との 混触を防止すること。

8. 曝露防止及び保護措置

設備対策	:屋内作業の場合は、作業者が直接曝露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者が曝露から避けられるような設備にする。 取扱い場所の近くには、シャワー、洗眼などの設備を設ける。		
管理濃度	:未設定		
許容濃度	日本産術学会	(2010年度版)	:設定されていない
	ACGIH	(2010年度版)	:設定されていない
保護具			
呼吸器の保護具	:保護マスク等の使用が望ましい		
手の保護具	:ゴム手袋		
目の保護具	:保護面、ゴーグル		
皮膚及び身体の保護具	:ゴム長靴、ゴム製保護衣		

9. 物理的及び化学的性質

外観			
物理的状态	:液体		
色	:無色透明		
臭い	:本製品は若干アンモニア臭がする場合がある		
凝固点	:-4.5℃		
沸点	:データなし		
凝固点	-11℃ (32.5%)、-4.5℃ (40%)		
引火点	:不燃性		
爆発範囲	:不燃性		
蒸気圧	:データなし		
比重(相対密度)	:1.09(32.5%)、1.11(40%)		
溶解度	:水に易溶		

10. 安定性及び反応性

安定性	:通常の条件では安定性がある。		
危険有害反応可能性	:強酸化剤等と反応すると火災と爆発の危険性がある。		
避けるべき条件	:加熱及び強酸化剤等の混触を避ける。		
混触危険物	:次亜塩素酸ソーダ、ポロナックのような次亜塩素酸塩との接触で爆発性の三塩化窒素が生成する。また、強酸化剤との接触で爆発する可能性がある。		
危険有害な生成物	:熱分解により、アンモニアガス、窒素酸化物及び一酸化炭素等が発生する恐れがある。		

11. 有害性情報

【本製品に関する情報がないため、尿素(固形)の情報を記載する】

急性毒性	:経口	LD50(ラット)	8,471mg/kg
	:気管内投与	LD50(ラット)	567mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	:有り		
眼に対する重篤な影響・刺激性	:有り		
呼吸器感作性	:データなし		
皮膚感作性	:人の皮膚に10%水溶液適用試験において「感作性なし」と評価されている。		
生殖細胞変異原性	:Ames試験 陰性		
発がん性	:ラットの経口による慢性毒性・発がん性スクリーニング試験で、腫瘍発生頻度の増加は認められていない。		
生殖毒性	:データなし		
特定標的臓器・全身毒性	:データなし		
吸引性呼吸器有害性	:データなし		

